

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査概要

調査の対象	<ul style="list-style-type: none">○ 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童○ 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒																																
調査の内容	<ul style="list-style-type: none">○ 教科に関する調査[国語、算数・数学、理科]<ul style="list-style-type: none">・ 国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式・ 中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式・ 次の①と②を一体的に問う調査問題<ul style="list-style-type: none">①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等○ 質問調査[生活習慣や学習環境等に関する質問調査]<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)・ 学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)																																
調査の方式	悉皆調査																																
調査実施日	<ul style="list-style-type: none">○ 教科に関する調査[国語、算数・数学、理科]<ul style="list-style-type: none">・ 国語、算数・数学及び小学校理科:令和7年(2025年)4月17日(木)・ 中学校理科:令和7年(2025年)4月14日(月)から4月17日(木)までの間で、文部科学省が指定する日○ 質問調査[生活習慣や学習環境等に関する質問調査]<ul style="list-style-type: none">・ 令和7年(2025年)4月の一定期間内にオンライン方式により実施																																
調査実施日に調査を実施した学校数・児童生徒数	<p>北海道(公立)</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>対象学校数(校)</th><th>実施数(校)(実施率)</th><th>児童生徒数(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>小学校</td><td>923</td><td>917(99.3%)</td><td>34,220</td></tr><tr><td>中学校</td><td>564</td><td>557(98.8%)</td><td>33,474</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,487</td><td>1,474(99.1%)</td><td>67,694</td></tr></tbody></table> <p>[参考]全国(公立)</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>対象学校数(校)</th><th>実施数(校)(実施率)</th><th>児童生徒数(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>小学校</td><td>18,313</td><td>18,289(99.9%)</td><td>936,576</td></tr><tr><td>中学校</td><td>9,311</td><td>9,291(99.8%)</td><td>871,097</td></tr><tr><td>合計</td><td>27,624</td><td>27,580(99.8%)</td><td>1,807,673</td></tr></tbody></table> <p>※札幌市を含む ※実施学校数は、調査実施日に調査を実施した数 ※児童生徒数は、教科に関する調査のうち、最も多くの児童生徒が実施した教科の人数で算出</p>		対象学校数(校)	実施数(校)(実施率)	児童生徒数(人)	小学校	923	917(99.3%)	34,220	中学校	564	557(98.8%)	33,474	合計	1,487	1,474(99.1%)	67,694		対象学校数(校)	実施数(校)(実施率)	児童生徒数(人)	小学校	18,313	18,289(99.9%)	936,576	中学校	9,311	9,291(99.8%)	871,097	合計	27,624	27,580(99.8%)	1,807,673
	対象学校数(校)	実施数(校)(実施率)	児童生徒数(人)																														
小学校	923	917(99.3%)	34,220																														
中学校	564	557(98.8%)	33,474																														
合計	1,487	1,474(99.1%)	67,694																														
	対象学校数(校)	実施数(校)(実施率)	児童生徒数(人)																														
小学校	18,313	18,289(99.9%)	936,576																														
中学校	9,311	9,291(99.8%)	871,097																														
合計	27,624	27,580(99.8%)	1,807,673																														

1 調査の概要

(3) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、中央値(*1)、標準偏差(*2)等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげるこ
とも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータを基に北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示している。
- 管内の状況で掲載している学校数は、調査実施日に実施した学校数、児童生徒数は、国語の調査に参加した児童生徒数を記載している。
- 表やグラフには、「その他」、「無回答」等の数値を記載していないものもあり、必ずしも合計が100パ
ーセントにならない場合がある。
- クロス集計については、相関関係(*3)が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものでは
ないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率等との相関関係が表
れにくいくことなどに留意する必要がある。
- 調査結果を多面的に解釈することができる示し方として、教科に関する調査結果のデータの分布を
「箱ひげ図」(*4)等で掲載している。

(4) 「中学校理科」IRTに基づく調査

- 「中学校理科」の結果は、これまでの正答数・率に代えて、IRTスコア・バンドで表示・返却
- 問題の構成
 - ・生徒1人当たり、公開問題10問と非公開問題16問を出題。
 - ・公開問題には全日程に共通する問題6問と実施日別の問題4問がある。
 - ・非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。
- IRTスコア・IRTバンド
 - ・IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
 - ・IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。
 - ・IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答して
いると低めに算出される。

*1 中央値:集団のデータを大きさの順に並べたときに、真ん中に位置する値。
平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差:集団のデータの平均値から
の離れ具合(散らばりの度合い)を表
す数値。標準偏差が0とは、ばらつき
がない(データの値が全て同じ)ことを
意味する。

*3 相関関係:2つの項目の間の何らかの
関係性のことを意味する。

*4 箱ひげ図:総務省統計局「なるほど統
計学園」のWebページを参照



※IRT(Item Response Theory:項目反応理論)とは、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できる。

※IRTに基づく調査結果を今後の学習指
導に活用する際に参考となるリーフレット
や動画等(文部科学省)



1 調査の概要

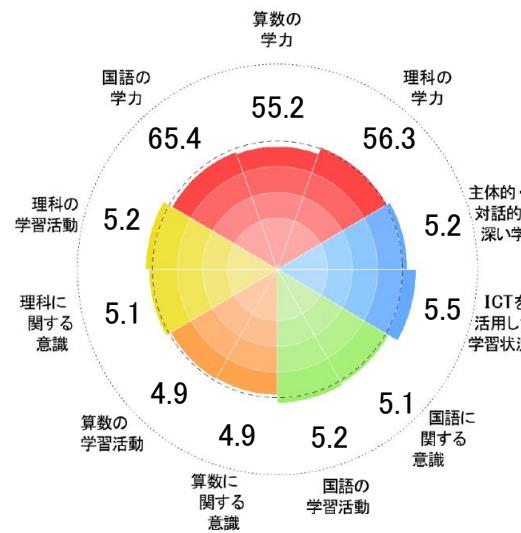
(5) 結果チャート

教科に関する調査及び質問調査の結果を全国と比較し、児童生徒の学力・学習状況等の特徴を視覚的に把握することができるよう、結果チャートで示しています。

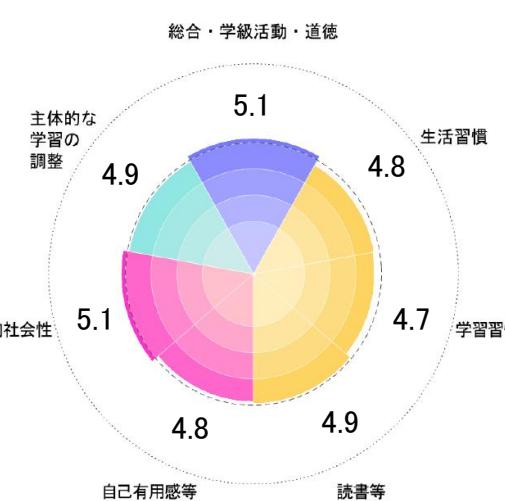
- ・教科の学力の項目は平均正答率・平均IRTスコアを示しています。
- ・教科の学力以外の項目は、質問の回答状況を全国平均が5.0となるように標準化した数値を示しており、その数値が大きいほど、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高いことを意味しています。

小学校

[教科を中心とした学力・学習状況]



[その他の学力・学習状況]

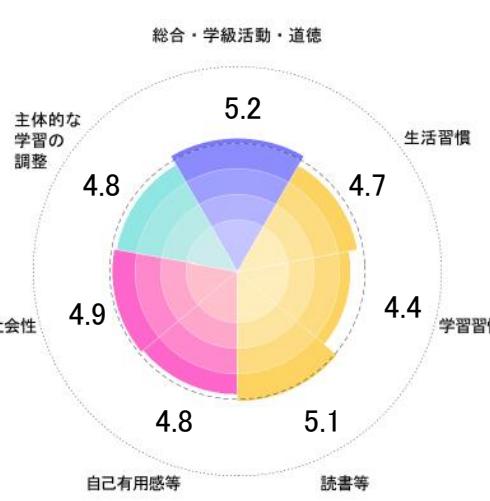


中学校

[教科を中心とした学力・学習状況]



[その他の学力・学習状況]



「ICTを活用した学習状況」や「主体的・対話的で深い学び」の領域のスコアが高く(うち、「ICTを活用した学習状況」は全国と比較しても高い)、「学習習慣」や「自己有用感等」の領域のスコアが低い

「国語に関する意識」や「ICTを活用した学習状況」の領域のスコアが高く(うち、「国語に関する意識」は、全国と比較しても高い)、「学習習慣」や「生活習慣」の領域のスコアが低い(うち、「学習習慣」は全国と比較しても低い)

※点線は全国平均を示しています。

※全国平均と比較してスコアの差が0.5以上開いた場合に、「全国と比較しても高い・低い」と記載しています。

番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号	番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号	番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	平均正答率	7	国語の学習活動	(46)(48)~(51)	13	生活習慣	(1)~(3)
2	算数・数学の学力	※中学校理科は 平均IRTスコア	8	算数・数学に関する意識	(52)(53)(55)(56)	14	学習習慣	(17)(19)
3	理科の学力		9	算数・数学の学習活動	(54)(57)~(59)	15	読書等	(21)~(24)
4	主体的・対話的で深い学び	(31)~(35)(37)(39)	10	理科に関する意識	(60)(61)(63)~(65)	16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)	11	理科の学習活動	(62)(66)~(70)	17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)	12	総合・学級活動・道徳	(40)~(43)	18	主体的な学習の調整	(16)(36)